

筆記 文庫

平市公報

第四十八號

昭和十七年三月十五日

○告示

告示第四號ノ一
左記道路敷ハ路線ノ位置變更ニ伴ヒ不用ニ歸シタルヲ以テ供用ヲ廢止ス
昭和十七年三月九日

平市道路管理者
平市長 猪 瀬 乙 彦

路線名	廢止區間	廢止延長
かかる線	自 字梅香町六一ノ三 至 〃 〃 七三 地先	一六八米

告示第四號ノ二
市道路線左記ノ通認定ス
昭和十七年三月九日

平市道路管理者
平市長 猪 瀬 乙 彦

路線名	延長認定區間	認定延長
かかる線	自 字梅香町 一九五地先 至 〃 〃 〇七地先	一六八米
わを線	自 字梅香町 三九地先 至 字四軒町 一七地先	五一米

告示第五號

平市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度平市歳入歳出豫算ノ要領左ノ如シ
昭和十七年三月十一日

平市長 猪 瀬 乙 彦

昭和十七年度平市歳入歳出豫算

歳入	歳入
第一款 國稅附加稅	金拾貳萬壹千九百拾四圓也
第二款 縣稅附加稅	金貳萬貳千貳百四拾圓也
第三款 獨立稅	金五萬貳千貳圓也
第四款 地方分與稅	金四萬九千八百八拾貳圓也
第五款 舊法ニ依ル稅收入	金貳千參百八拾七圓也
第六款 財產ヨリ生ズル收入	金九百拾參圓也
第七款 使用料及手数料	金拾四萬壹千五百參拾五圓也

第八	水道工事費收入	金七千五百四拾八圓也
第九	交付金	金六千六百拾五圓也
第一〇	納付金	金六百參拾參圓也
第一	就學獎勵金	金貳百參拾圓也
第二	國庫補助金	金參萬七千八百貳拾五圓也
第三	縣補助金	金九千貳百六拾四圓也
第四	寄附金	金四千九百貳拾七圓也
第五	財產賣拂代	金百五圓也
第六	繰越金	金壹萬貳百八拾貳圓也
第七	雜收入	金六千參百八拾四圓也
第八	市債	金貳萬六千六百圓也
	歲入合計	金五拾萬七百八拾六圓也
第一款	神社費	金四百拾五圓也
第二款	會議費	金四千參百六拾六圓也
第三款	役所費	金九萬五千八百六拾九圓也
第四款	土木費	金壹萬壹千四百參拾五圓也
第五款	國民學校費	金參萬五千四百貳拾九圓也
第六款	商業學校費	金四萬參千貳圓也
第七款	高等女學校費	金壹萬五千八百貳圓也
第八款	青年學校費	金壹萬壹千九百五拾五圓也
第九款	學事諸費	金壹千六百九拾圓也
第一〇	衛生費	金八百拾六圓也
第一	傳染病豫防費	金壹千四百貳拾四圓也
第二	傳染病院費	金五千參拾七圓也
第三	汚物掃除費	金九千四百九拾參圓也

第一四	水道費	金壹萬九千八圓也
第一五	公會堂費	金壹千六百四拾壹圓也
第一六	公園費	金七百六拾六圓也
第一七	火葬場費	金貳千參百七拾參圓也
第一八	勸業費	金壹千四百八拾五圓也
第一九	統計費	金七百參拾圓也
第二〇	社會事業費	金八千七百拾五圓也
第二	警防費	金壹萬九千五百五拾九圓也
第二	徵發物輸送費	金壹圓也
第二	財產負擔費	金壹千貳百拾七圓也
第二	諸稅負擔	金百六圓也
第二	公金取扱費	金五百參拾圓也
第二	雜支費	金壹千八百八拾九圓也
第二	地方振興費	金四千八百六拾四圓也
第二	退隱料退職死亡給與金積立	金六百貳拾八圓也
第二	豫備費	金壹萬圓也
第一	歲出經常部計	金參拾壹萬參百四拾五圓也
第一款	役所費	金參百圓也
第二款	土木費	金壹萬貳拾圓也
第三款	國民學校費	金六千四百七拾貳圓也
第四款	商業學校費	金壹千六百五拾圓也
第五款	高等女學校費	金八千貳百九拾八圓也
第六款	選舉費	金參百六拾參圓也
第七款	警防費	金壹萬壹千六百六圓也
	臨時部	

第八〃	公會堂費	金貳百五十拾圓也
第九〃	公債	金六萬貳千七拾六圓也
第一〇〃	戻入金	金壹千四百九拾參圓也
第一〇〃	補助金	金貳千六百五拾圓也
第一二〃	訴訟費	金五圓也
第一三〃	水道費	金壹萬四百八拾圓也
第一四〃	都市計畫費	金貳千五百參拾五圓也
第一五〃	特別會計線入	金壹千參百五拾九圓也
第一六〃	事務變費	金壹千四百七拾九圓也
第一七〃	銃後施設費	金壹千六百四拾五圓也
第一八〃	雜支	金八百七拾六圓也
第一九〃	手當	金參萬六千參拾九圓也
第二〇〃	商業學校增築費 本年度支出額	金貳萬六千六百八拾五圓也
第二一〃	放送局建設費	金四千六百六拾圓也
	歲出臨時部計	金拾九萬四百四拾壹圓也
	歲出合計	金五拾萬七千八百八拾六圓也
	歲入出差引殘金ナシ	

告示第六號
平市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度特別會計平市公益質屋歲入歲出豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十七年三月十一日
平市長 猪 瀬 乙 彦

第一款	事業收入	金六萬七千百壹圓也
第二款	預金利息	金四拾五圓也
第三款	繰入金	金壹千參百五拾九圓也
第四款	繰越金	金百拾四圓也
第五款	雜收入	金五圓也
	歲入合計	金六萬八千六百貳拾四圓也
	歲出	
第一款	事業費	金六萬五千百圓也
第二款	事務所費	金壹千八百六拾七圓也
第三款	公債費	金壹千四百七拾壹圓也
第四款	管理費	金百圓也
第五款	雜支出	金貳拾壹圓也
第六款	豫備費	金六拾五圓也
	歲出合計	金六萬八千六百貳拾四圓也
	歲入出差引殘金ナシ	

告示第七號
平市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度特別會計基本財産歲入歲出豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十七年三月十一日
平市長 猪 瀬 乙 彦

昭和十七年度特別會計基本財産歲入歲出豫算

第一款	財産ヨリ生ズル收入	金貳千六百貳拾四圓也
第二款	寄附金	金壹千五百五拾圓也
	歲入合計	金參千七百七拾四圓也

平市公報 第四十八號 昭和十七年三月十五日 (毎月一回十五日發行)

第一欸 積立金 金參千七百六拾九圓也
 第二〃 雜費 金五圓也
 歲出合計 金參千七百七拾四圓也

歲入出差引殘金ナシ

告示第八號

平市會ノ議決ヲ經タル昭和十六年度平市歲入歲出追加更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十七年三月十一日

平市長 猪瀬乙彦

昭和十六年度平市歲入歲出追加更正豫算

第七欸 使用料及手數料 金拾參萬貳千四拾六圓也
 第一四欸 寄附金 金八萬五千百七拾九圓也
 歲入合計 金百六萬六千五百五圓也

歲出 經常部 金四萬八千八百四拾參圓也

第五欸 國民學校費 金五千四百貳拾參圓也
 第二六欸 地方振興費 金貳千九百貳拾圓也
 第二八欸 豫備費 金參拾貳萬壹千六百四拾七圓

歲出 臨時部 金四萬六千四百六圓也

第一〇欸 寄附金 金七拾四萬四千八百五拾八圓也
 歲出合計 金百六萬六千五百五圓也
 歲入出差引殘金ナシ

告示第九號

平市會ノ認定ヲ經タル昭和十五年度平市歲入歲出決算ノ要領左ノ如シ

昭和十七年三月十一日

平市長 猪瀬乙彦

昭和十五年度平市歲入歲出決算

第一欸 國稅附加稅 金六萬六千四百九圓八拾五錢
 第二〃 縣稅附加稅 金參萬九千六百八拾六圓拾五錢
 第三〃 獨立稅 金五萬壹千參百八拾壹圓七拾九錢
 第四〃 地方分與稅 金四萬五千參百八拾九圓
 第五〃 舊法ニ依ル稅收入 金貳萬壹千四百七拾壹圓六拾壹錢
 第六〃 財產ヨリ生ズル收入 金四百五拾六圓八拾四錢
 第七〃 使用料及手數料 金拾貳萬八千參百圓參拾壹錢
 第八〃 水道工事費收入 金七千六百四拾圓六拾九錢
 第九〃 交付金 金七千五百八拾五圓貳錢
 第一〇〃 納付金 ナシ
 第一一〃 就學獎勵金 金貳百貳拾六圓六拾九錢
 第一二〃 國庫補助金 金壹萬七千六百九拾四圓拾貳錢
 第一三〃 縣補助金 金八千貳百四拾五圓九拾九錢
 第一四〃 寄附金 金六千七百五拾五圓四拾九錢
 第一五〃 財產賣拂代金 ナシ
 第一六〃 繰越金 金九萬四千七百八拾七圓九拾四錢
 第一七〃 雜收入 金五千參百四拾七圓八拾七錢
 第一八〃 市債 金拾八萬八千圓

第一九〇 縣立工業學校敷地買上費交付金

歲入合計

歲出

第一〇〇	傳染病預防費	金壹千參百五拾貳圓壹錢
第九〇	衛生費	金六百七拾七圓參拾七錢
第八〇	學事諸費	金貳千參圓八拾八錢
第七〇	青年學校費	金九千拾九圓貳拾參錢
第六〇	商業學校費	金參萬四千貳百七拾九圓五拾四錢
第五〇	小學校費	金參萬九千六百參拾圓拾九錢
第四〇	土木費	金壹萬五千七拾八圓七錢
第三〇	役所費	金九萬貳千五百九拾壹圓六拾七錢
第二〇	會議費	金四千七圓參拾七錢
第一〇	神會費	金參百四拾參圓四拾五錢
第一九	社會事業費	金七拾萬六千參百七拾九圓參拾六錢
第一八	警防費	金貳千八拾參圓貳拾六錢
第一七	統計費	金貳千八拾參圓貳拾六錢
第一六	勸業費	金五百貳拾圓六拾八錢
第一五	火葬場費	金七千貳百貳拾參圓六錢
第一四	公園費	金壹萬六千貳百貳拾四圓九拾四錢
第一三	水道費	金貳千貳百參拾四圓貳拾壹錢
第一二	汚物掃除費	金貳萬壹千六拾壹圓六拾參錢
第一一	傳染病預防費	金七千七圓四拾六錢
第一〇	傳染病預防費	金五千七百拾四圓五拾參錢
第九	衛生費	金貳千參百五拾貳圓壹錢
第八	學事諸費	金六百七拾七圓參拾七錢
第七	青年學校費	金九千拾九圓貳拾參錢
第六	商業學校費	金參萬四千貳百七拾九圓五拾四錢
第五	小學校費	金參萬九千六百參拾圓拾九錢
第四	土木費	金壹萬五千七拾八圓七錢
第三	役所費	金九萬貳千五百九拾壹圓六拾七錢
第二	會議費	金四千七圓參拾七錢
第一	神會費	金參百四拾參圓四拾五錢
第一〇〇	縣立工業學校敷地買上費交付金	金壹萬七千圓

經常部

第二三〇	公金取扱費	金四百八拾圓五拾參錢
第二二〇	公會堂費	金壹千七百六拾貳圓九拾九錢
第二一〇	雜支	金六百拾貳圓五錢
第二〇〇	地方改良費	金四千七百拾壹圓拾參七錢
第一九〇	退隱料退職死亡給與金積立	金五百五圓七拾九錢
第一八〇	豫備費	ナシ
第一七〇	豫備費	金貳拾七萬參千參百八拾七圓貳拾七錢

臨時部

第一〇〇	役所費	金百四拾八圓拾參錢
第九〇	土木費	金壹萬六千貳百九拾五圓四拾壹錢
第八〇	小學校費	金貳千貳百四拾七圓六拾壹錢
第七〇	商業學校費	金參千貳百四拾四圓九拾七錢
第六〇	選舉費	ナシ
第五〇	警防費	金八千五拾參圓四拾六錢
第四〇	公會堂費	金參百四拾八圓九拾錢
第三〇	公債費	金四萬九千五百拾五圓貳拾八錢
第二〇	公債費	金壹千四百九拾貳圓五拾錢
第一〇	寄附金	金拾壹萬六千五拾參圓
第一〇〇	補助費	金五千壹百拾圓
第九〇	訴訟費	金貳圓
第八〇	水道費	金四千八百拾圓五拾貳錢
第七〇	都市計畫費	金貳千參拾壹圓八拾貳錢
第六〇	特別會計繰入	金壹千八百六拾五圓
第五〇	事變費	金壹千七百四拾七圓九拾貳錢
第四〇	雜支	金貳千四百六拾貳圓七拾七錢

第一八〇〇 國勢調査費 金五百拾六圓八拾參錢
 第一九〇〇 學校敷地費 金壹萬四千參百六拾六圓參拾八錢
 第二〇〇〇 縣立工業學校敷地費 金七千六百九拾八圓七拾九錢

歲出臨時部計
 歲出合計 金貳拾參萬八千拾壹圓貳拾九錢
 歲入出差引殘金拾九萬四千九百八拾圓八拾錢 翌年度繰越

告示第十號

平市會ノ認定ヲ經タル昭和十五年度特別會計平市公益質屋歲入歲出決算
 ノ要領左ノ如シ

昭和十七年三月十一日

平市長 猪 瀬 乙 彦

昭和十五年度特別會計公益質屋歲入歲出決算

歲入
 第一款 貸付金利息 金壹千四百六拾參圓九拾九錢
 第二款 雜收 金六拾六圓拾四錢
 第三款 繰越金 金貳萬四拾五圓五拾四錢
 第四款 繰入金 金壹千八百六拾五圓
 第五款 國庫補助金 金參拾圓
 歲入合計 金貳萬參千四百七拾圓六拾七錢

歲出
 第一款 事務所費 金壹千六百拾九圓四拾壹錢
 第二款 運轉資金 金參千四百七拾圓貳拾八錢
 第三款 公債費 金參百拾參圓四錢
 第四款 修繕費 金參百拾參圓四錢
 第五款 豫備費 ナシ

經常部合計
 歲入合計 金參千四百貳圓七拾參錢
 歲入出差引殘金貳萬六拾七圓九拾四錢 翌年度繰越

告示第十一號

平市會ノ認定ヲ經タル昭和十五年度特別會計平市基本財産歲入歲出決算
 ノ要領左ノ如シ

昭和十七年三月十一日

平市長 猪 瀬 乙 彦

昭和十五年度特別會計平市基本財産歲入歲出決算

歲入
 第一款 財產ヨリ生ズル收入 金貳千五百九拾四圓拾參錢
 第二款 寄附金 金壹千九拾壹圓拾六錢
 歲入合計 金參千六百八拾五圓貳拾九錢

歲出
 第一款 積立金 金參千六百七拾九圓七拾七錢
 第二款 雜費 金五圓五拾貳錢
 歲出合計 金參千六百八拾五圓貳拾九錢

○ 辭 令

二月二十四日
 雇ヲ命ス 月俸四拾圓給與 雇 鈴 木 義 輝
 財務課市稅係ヲ命ス 雇 鈴 木 義 輝

二月二十六日
 雇ヲ命ス 月俸四拾圓給與
 社會課社會事業係ヲ命ス
 雇 高 高
 高 橋 橋
 正 正
 平 平

◎彙報

○庶務

二月中文書收受發送數

合	教	社	工	警	兵	衛	勸	財	庶
計	務	會	務	防	事	生	業	務	務
一、三〇六	一、一〇〇	七二	三九	五	二〇一	三八	一〇三	一三二	六〇六
四四五	六三	五四	三四	五	六六	一五	四四	二〇	一四四
一、七五一	一七三	一二六	七三	一〇	二六七	五三	一四七	一五二	七五〇

二月中諸證明件數

平市公報 第四十八號 昭和十七年三月十五日 (每月一回十五日發行)

二月中公會堂使用狀況

種別	件數	料金
身分	六五	一三、〇〇
印鑑	一五七	三一、四〇
其他	八	一、六〇
計	二三〇	四六、〇〇

二月中公會堂使用狀況

種別	回数	料金
有料	八	一〇
無料	四	五
市役所使用	一九七	八五
計	一九七	一〇五

二月中戶籍寄留件數

出生	八四	本籍	四二	非本籍	二六
死亡	四一	本籍	一六	非本籍	二六
離婚	三八	本籍	一〇	非本籍	二六
其他	五	本籍	一	非本籍	二六
計	一三六	本籍	六九	非本籍	六六

公益質屋事業成績

(二月分)

職業	貸付状況	辨償状況	質物種類	口數	貸付状況	辨償状況
職業者	六	三	債	三	三	三
労働者	三	三	家	三	三	三
俸給生活者	三	三	具	三	三	三
小工業者	三	三	身	三	三	三
小商人	三	三	類	三	三	三
農業者	三	三	他	三	三	三
漁業者	三	三	計	三	三	三
其ノ他	三	三	額	三	三	三
計	三	三	利	三	三	三
四月以降	三	三	子	三	三	三
累計	三	三	計	三	三	三

振興

一、新嘉坡陥落戦捷祝賀行事

昭和十七年二月十八日新嘉坡感涙の入城式當日午前十時半より平市第一國民學校々庭に於て第一次戦捷祝賀式を舉行、終つて各國体代表を二班に分ち兩縣社に戦捷奉告並に祈願祭を執行、市民一般は建國祭の例に準じ市内祝賀行進を實施せり 祝賀の辭次の如し

祝賀の辭

今回皇軍がジフラルタル、ヘリゴランド、珠灣ト共ニ世界の四大要塞と併稱せらるゝシンガポール島の完全占領を了へ次で全島は昭南島と改名せられ本日晴れの入城式舉行さるとの快報に接し吾が平市に於ては豫定の全國的計畫に従ひ茲に第一國民學校庭に式場を設け大東亞戰爭勃發以來善謀善戰敏速果敢轉々敵の要衝を覆滅し以て今日に至りし己往の綜合的大戦果に對し老幼相携へ欣喜雀躍滿腔の至情を披歴し謹んで祝賀の意を表せむとする次第であります 熟々青史を按ずるに肇國以來二千五百年此の間皇國は内或は人臣の權勢を逐ふて相闘ぐあり時に文武の制度軌を逸せし設定を見たるが如きことも無かつたとは言ひ得ずせんが忠孝一本、至尊を中心と仰ぎ奉り義は君臣情は父子との觀念に至りましては率として國民の腦裡より離れず時勢の推移世態の變遷暫しも休まざる裡に在つて獨り五常の道を飽くまで尙ばんとするの美風は儼として移らうことがありませんでした

紀元二千五百年より一千年間の近世に於きましては内にはかの大政維新の大改變があり外には歐米列強の虚に乗せんとする策動がありまして我が國は眞に内外憂患相踵くの受難時代に遭遇したのであります 併しながら我が國は徹頭徹尾外國の力に依存せず自力に依つて克く百般の内政を整へ明治二十七年、八年には清國の傲慢不遜を膺懲し次で全三七、八年には露國の專恣横暴に大鐵槌を加へ正を履んで毫も懼るゝことなく他國民族には到底忍び得ざる犠牲と消費とに耐へ千辛萬苦愈々勇を鼓して邁進を續け果ては滿洲國の創立保育の東亞新秩序の建設に歩武堂々毅然として聖戰の旗色を少しも變へませんでした昭和十二年七月に勃發し爾來繼續四ヶ年半に亘りし支那事變は何と申しましたも皇國に課せられた手強き試験でありましたが其れと同時に又食婪飽くなき米英兩國に對しては積年の罪科を一括し森嚴なる天罰の報を受けしむべき勳機

が孕まれたとも謂ひ得るのであります

而して天意に依り破邪顯正の利劍を揮つて米、英を始め世界の無道國に一大覺醒を促すべき使命を賦與せられたるの實に我等の大日本帝國であつたのであります。古人は天の將に大任を是の人に降さんとすは必ず先づ其の心と志を苦しめ其の筋骨を勞し其の皮膚を餓えしめ其の身を空乏にして鍛練啓發せしめると説いて居りますが此の言を推し弘め之に照して世界萬邦の動向を觀察し皇國現在の奮戰力圖が如何なる意義を有するものむるかを考ふる時各位と共に澎湃たる會心の歡びを禁じ得ぬのであります。

紀元二千六百年 此の年我等は支那事變の完遂に努力を續けつゝ、遠く擊國の古へを偲びて目出度き年次を記念奉祝し一面舉國一致大政翼賛の体制を整へ世界情勢の推移に備ふる所がありました。越へて紀元二千六百年一年を迎へますや即ち是れが昭和十六年でありまして其の將に暮れんとする十二月に於てかの米、英兩國に對し正義の戦ひを宣するに至つたのであります。時に劃然として神武紀元六百年、所は又我が大八州の所在せる西太平洋洋濠として東風に靡へる日章の旗影こそ唯我獨尊、毫も自己を反省せぬ永年に亘り亞細亞民族を侮蔑し我利貪慾専恣と横暴の限りを盡せし米、英兩國の罪科を裁斷する天の宣告を標榜するものと觀ずして何と觀ませう。

十二月八日、在眞珠灣米國主力艦航空母艦の轟沈、擊破、同日を以て決發せられたる宣戰の大詔、同日不沈浮城と豪語せし英國二大戦艦のマレー半島東海岸に於ける轟沈、同十二日にグアム島、同二十三日にウエーイク島、同二十五日に金城湯池と誇りし香港の逐次完全占領、次で今年に入りては一月二日比島マニラ港の攻略、同十二月蘭印に對する軍事行動開始の聲明發表に續き領内主要島嶼港灣の獲得、更にマレー半島の席捲と共に英領ビルマ要衝の轉々覆滅、今回又開戦後僅かに七十日にして

難攻不落と銘打ちたるシンガポール要塞の確實奪取凡そ以上を主なるものとして所在各所の敵基地は殆んど皇軍の手に歸し醜汚視るを欲せざる塵芥は除去され海波頓に靜まり清められたる爽快さ明朗さこそは眞實現下に於ける西太平洋上の眺めでありませう。

實に皇軍の進撃の前に有ゆる弱性を晒しつゝある敵國の姿を眼のあたり見るの時、正しからざる者が如何に弱く正しきものが如何に強き意志と力量を有し得るものなるかを切實に證示して居る感を禁じ得ません。遮莫 上天に在ります。皇祖皇宗の神靈に應へまつることを得させ給へる。

大御心の裡は誠に拜察し奉るだに恐懼感激の至りでありませう。而して此の大戦捷こそ固より 大稜威の下我等一億の皇民一心打つて一丸となり鐵石の雄へを以て未曾有の國難に對處せし結果に外なりません。殊に第一線に於て奮戰敢闘鬼神の武威を發揮せられたる我が陸海空軍の偉績に至りては到底筆舌の克く盡へ盡くし得る所にあらず。聖戰完遂の途上敬華せられたる護國の英靈に對し恭しく愛惜敬弔の誠意を捧ぐると共に引續き有ゆる艱苦に抗し頑敵を制壓しつゝある勇將猛士に對しては又甚深なる謝意を表し併せて切に其の武運長久を祈るものであります。

世界萬國をして各々其の所を得しめんがため敢然として決行しつゝある今次の聖戰天佑神助我等の上は敦かるべきは信じて疑はざるところであります。之れと同時に我等は今次大東亞戰爭緒戦の捷利を誇ぐの一面上天に依つて課せられたる使命の重大なるを思ひ萬難を排して之を完遂するの責任觀念と覺悟とを彌が上にも鞏固にせねばならぬと痛感するものであります。

神明は一勝に安んじて治平の夢を逐はんとする者に斷じて勝利の榮冠を許しません。況んや莫大の富力を擁し豊饒なる資源を有する米、英兩國が一味合帯心を碎きて捲土重來を畫策しつゝあるに於ては尙更のことでありませう。

茲に吾等は戦捷を祝賀するの心の裡に邪慾に眼眩める米、英並に彼等に與する諸敵國を徹底的に膺懲し八紘一宇の大理想に邁ひ大東亞否世界の新秩序を立て、聖業達成の日を見る迄は假令如何なる難事に逢着するも將又抗戦如何に長期に亘るも堅忍克く心を弛めず、我が戦力を擴充し斯くて銃後奉公の完璧を期し皇國を富強の安きに置き以て御慮に副ひ奉らんことを神明を誓ふものであります

以上所懐を陳べ不退轉の決意を披瀝して本日戦捷祝賀の辭と致します

昭和十七年二月十八日 平市長 猪瀬乙彦

○社 會

二月中救護狀況

種 別	世帯數	人員	延人員	金額	摘 要
救護法ニ依ル救護	三	一〇三	二、八四	二、三、四	
母子保護法ニ依ル救護	三	三三	三六	七、六	
合 計	三	一四〇	四、〇六	四七、八〇	

○衛 生

二月中埋火葬

傳染病患者

病 名	越人員	本月發生	計	入院	同上ノ全治	死亡	二月末日現在
傷チフス	二	三	五	七	三	一	四
チフテリア	二	三	五	七	三	一	四
赤痢	二	三	五	七	三	一	四
疫痢	二	三	五	七	三	一	四
猩紅熱	二	三	五	七	三	一	四
計	二	三	五	七	三	一	四

○警 防

種 別	本市住民		他 町 村		人員 計	金額
	人員	金額	人員	金額		
火葬	二六	一、九、〇〇	三	一、九、〇〇	二九	三、八、〇〇
計	二六	一、九、〇〇	三	一、九、〇〇	二九	三、八、〇〇

防空實施下ニ於ケル訓練

防空實施下に於ける防空強化訓練は二月廿一日午後三時訓練警戒警報發令と共に開始せられ各防空機關は勿論各防空從事員に至る迄夫々防空設備資材の整備其他の防護体制を整ふると共に廿一、廿二の兩夜に亘り警察官吏市吏員、警防團幹部及防空指導員各地域の分擔燈火管制の状況を實地指導し二月廿三日午前七時訓練空襲警報發令せらるゝや各防空機關各家庭に現示班の状況、現示に依り各種の防護動作を行ひ爾後空襲警報毎に訓練を實施し更に午後三時の空襲警報發令せらるゝや市内防護動作は最高潮に達し殊に四丁目以東並以南の地區に防空各般に亘る防護動作を實戰的に施行し防空戰士としての實力を遺憾なく發揮し訓練視察中の縣警察部長より賞讃せられたる。斯くして爾後二回に亘る空襲警報毎に益々實力を發揮し良好なる成績を以て午後十一時三十分訓練を終了せり。

市 葬

故陸軍伍長橋本喜言氏、故陸軍伍長田中敏之氏、故陸軍伍長福田一雄氏、故陸軍兵長細谷孝榮氏、故甲種看護婦中柴マスコ女史ノ合同市葬ハ三月七日午後一時ヨリ平市公會堂ニ於テ猪瀬市長司祭者トナリ委員長、副委員長市葬儀委員夫々奉仕、盛大嚴肅裡ニ執行セラルル式場ニハ福島縣知事、福島縣區司令官ノ各代理官、市名譽職員、官衙長、學校長、隣接町村長各種團體ヲ始メ一般市民多數參列所定ノ順序ニヨリ野崎委員長開式ヲ宣シ一同英靈ニ對シ拜禮ノ上、神式、佛式ニ移リ次第市長ノ祭詞、遺族ノ玉串奉奠燒香、福島縣知事、聯隊司令官ノ弔詞代讀、市會議長、在郷軍人會、平市聯合分會長、其ノ他順次弔詞、玉串奉奠、燒香ヲ爲シ、畢ツテ一同拜禮、

市長ノ挨拶、遺族代表ノ謝辭、次テ閉式ノ辭ニテ午後三時終了セリ
更ニ橋本伍長、田中伍長、細谷兵長、中柴看護婦ハ公會堂ヨリ、福田伍長ハ靈柩車ニテ第四國民學校ニ到リ葬列ヲ整へ沿道各學校生徒塔列一般市民ノ送葬ヲ受ケ、大林寺、性源寺、常勝院、泉藏院、菩提院ニ夫々埋葬シタリ

○財務課

改正サレタ所得稅増徴ノ要點

本年二月二十一日法律第四十七號ヲ以テ改正所得稅法ハ公布トナリ四月一日ヨリ施行セラル、コトトナツタ
今ヤ大東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒ臨時軍事費其ノ他戰爭遂行上必要ナル經費ハ極メテ多額ニ上リ今後我國ノ財政需要ハ相當長期ニ亘リ膨脹スルコトハ免レ難イコトデアル、而シテ今次改正サレタ増稅方針ハ其ノ主眼ヲ分類所得稅ニ置キ、廣ク國民ガ其ノ能力ニ應ジテ賦稅ヲ負擔セシムルコトトシ一面ニ於テ購買力ノ吸收ニ資スル見地ヨリシテ各所得間ノ負擔ニ留意シ稅率ノ引上及免稅點又ハ基礎扣除ノ引下ヲ行ヒ稅總額ニ於テ大休五割五分程度ヲ増徴セラル、コト、ナツタノデアル、即チ大東亞戰爭必勝ノ國民ノ意氣ヲ示ス増稅デアルドモ云ヒ得ルノデアル、其ノ改正要點ハ第一ニ稅率ノ引上デアアル、不動産所得ニ付テハ百分ノ十ヲ、百分ノ十六トシ、配當利子所得ニ付テハ百分ノ十ヲ、百分ノ十五トシ、營業所得ニ付テハ百分ノ八、五ヲ、百分ノ十三トシ、營業以外ノ事業所得ニ付テハ百分ノ七、五ヲ、百分ノ十二トシ、又勤勞所得ニ付テハ百分ノ六ヲ、百分ノ十二引上グルコトトナツタノデアル。之ニ伴ヒ配當利子所得中ノ國債及地方債ノ利子、銀行貯蓄預

金等ノ利子ニ付テモ税率ヲ各々百分ノ五ヲ引上、小額ノ事業所得、山林ノ所得、退職所得等ニ付テモ夫々適當ナル税率ノ引上ヲ行ハレ、尙不動産所得ノ税率ハ從來單一デアツタガ、今回ノ税率引上ニ伴ヒ少額ノモノニ付多少負擔ヲ緩和スルノ必要アリトシテ之ヲ區分シ税率ヲ百分ノ十四ト定メラレタノデアアル。

第二ハ免稅點又ハ基礎控除等ノ引下デアアル、即チ不動産所得ノ免稅點二百五十圓ヲ百五十圓ニ、事業所得及山林所得ノ基礎控除五百圓ヲ四百圓ニ、勤勞所得ノ基礎控除七百二十圓ヲ六百圓ニ、退職所得ノ扣除ハ一萬圓ヲ五千圓ニ改メラレ各々負擔ノ普通化ヲ圖ラレタノデアアル。

第三ハ節稅率ノ引上及免稅點等ノ引下ニ伴ヒ扶養家族多キ者ノ負擔ヲ緩和スルコトハ負擔ノ衡平ヲ期スル所以デアアルト云フコトト又人口及國民保健政策ノ見地ヨリスルモ此ノ際適當ナル措置ト認メラレ扶養家族ノ扣除額ヲ現行ノ年百五十圓ニ對スル百分ノ八、即チ月一圓ヲ、二百圓ニ對スル百分ノ十二、月二圓ヲ引上グルト共ニ更ニ五人以上子供ヲ有スル所得者ニ對シテハ特ニ扣除額ヲ年二百圓ノ百分十八即チ月三圓ニ引上グルコトトセラレタノデアアル。尙扶養家族ニ對スル扣除ノ制度ハ從來綜合所得稅ノ納稅者ニハ分類所得ノ扣除ハ認メラレオカツタノデアアルガ今回其ノ控除ヲ受クベキ範圍ヲ擴張シテ是等ノ者ニモ齊シク控除ノ特典ヲ認ムルコトト成ツタノデアアル。

第四ハ生命保健料ニ付テモ此ノ際控除額ヲ相當程度引上グルノ要アリトシテ現行ノ年二百圓以内ニ於テ拂込保險料ノ百分ノ六ヲ年二百四十圓迄認ムルコトトシ其ノ控除率ヲ百分ノ十二改メラレタノデアアル。

第五ハ銀行貯蓄預金産業組合貯金等ノ利子ニ對スル免稅範圍ノ擴張デアアルガ從來此ノ種ノ利子所得ハ三千圓ヲ限度トシテ所得稅ヲ免除シテ居ツタノデアアルガ貯蓄ノ獎勵、郵便貯金預入最高限度ノ引上等ニ照應シ今回五千圓迄ニ免稅スルコトニ改メラレタノデアアル。

第六ハ株式ノ清算市場ニ於ケル取引ニ因ル所得デ從來課稅セラレナカツタモノニ付テモ他ノ所得トノ權衡上新ニ分類所得稅ヲ課スルコトトナリ、株式ノ清算取引ニ依リ生ジク所得ヨリ三千圓ヲ控除シタ殘額ニ對シ百分ノ二十五乃至百分ノ五十五ノ税率ニ依リ課稅スルコト、ナツタノデアアル。尤モ此ノ課稅ハ昭和十八年度分ヨリ適用サルコトニ成テ居ル。

次ハ綜合所得稅ニ付テアルガ、此ノ稅ニ付テハ其ノ重要ナル點ハ課稅最低限ノ引下デアツテ、即チ各方面共負擔ノ増加ヲ來ス際トシテハ、本稅ノ課稅最低額タル從來ノ五千圓ハ此ノ際之ヲ相當程度引下グルノガ適當デアアルトサレ、三千圓ニ改メラレ又税率ノ引上デアアルガ現在相當高率ノ課稅ヲ爲シテ居ル現狀ニ顧ミ大體二割程度ヲ引上、從來五千圓超百分ノ十乃至八十萬圓超、百分ノ六十五デアツタノガ今回三千圓超百分ノ六乃至五十萬圓超、百分ノ七十二ノ税率ニ依リ課稅スルコトト成ツタノデアアル。此ノ税率引上ニ對應シテ公債、銀行預金ノ利子ニ付源泉課稅ヲ選擇シタ場合ノ綜合所得稅率モ從來ノ百分ノ十五ヲ百分ノ二十五ニ引上、更ニ配當所得ニ對スル稅額加算ノ廢止デアアルガ、即チ綜合所得稅ノ納稅義務者デアツテ配當所得ヲ有スル者ニ對シテハ從來分類所得稅ヲ徵收スル際控除シタル一割相當額ノ輕減稅額ヲ、綜合所得稅ヲ課スル場合之ニ加算シテ徵收スルコトトナツテ居タガ右ノ加算ハ之ヲ廢止サレタノデアアル。以上ハ今回改正セラレタ所得稅ノ要點デアアル。

市會

昭和十七年二月二十八日開會三月五日閉會セリ 附議事件左ノ如シ
一 昭和十七年度平市歳入歳出豫算
一 昭和十七年度特別會計平市公益質屋歳入歳出豫算

- 昭和三十七年度特別會計基本財産歳入歳出豫算
- 平市税賦課徴收條例中改正ノ件
- 商業學校増築費起債ノ件
- 國民學校授業料制限外徴收ノ件
- 國民學校基本財産運用金戻入方法變更ノ件
- 平市區長及代理者設置規程廢止ノ件
- 平市名譽職員表彰規程改正ノ件
- 昭和十六年度市民稅隨時賦課ノ件
- 市費補助ノ件
- 古鐵供出ノ件
- 昭和十六年度平市歳入歳出追加更生豫算
- 國民學校敷地取擴ノ件
- 寄附採納ノ件
- 市道路線認定ノ件
- 昭和十五年度平市歳入歳出決算報告ノ件
- 昭和十五年度特別會計平公益質屋歳入出決算報告ノ件
- 昭和十五年度特別會計基本財産歳入出決算報告ノ件
- 昭和十六年平市事務報告及財産表ノ件
- 市道路線一部廢止及延長認定ノ件
- 市會議員辭職ノ件

◎ 委員會

二月十六日 水道委員會
 二月十六日 學務委員會

二月十七日 土木委員會
 二月十七日 警防委員會
 二月二十五日 警防委員會
 三月三日 學務委員會
 三月五日 土木委員會
 三月七日 土木委員會

◎ 市常會

一、二月二十日 市支部常務委員會ヲ午前十時ヨリ市會議事堂ニ於テ開催セリ
 二、二月二十五日 市常會ヲ午後一時ヨリ市公會堂日本間ニ於テ開催セリ

昭和十七年三月十五日

發行所 平市役所
發行人 猪瀬乙彦

印刷者 福島縣平市長橋町三五番地
川崎文治

福島縣平市長橋町三五番地

印刷所 常盤每日印刷株式會社

電話 六三〇